

学力向上に向けて

研究推進委員会

昨年 11 月に市内一斉に実施された「中学校 3 年生学力調査」の結果から考えられる今後の課題は、まず、数学、英語において、つまずいている生徒が多いことである。20 点に満たない生徒が多数おり、入学時からの継続した学習が必要かと思われる。第 2 に、各教科の学習領域における達成率にばらつきがあること。例えば、達成率が 50% に達していない領域は、国語(漢文の読解 43%)、社会(地理分野総合 48%、歴史分野総合 37%)、数学(関数 44%、図形 37%、資料の活用 45%、規則性 25%、一次関数の利用 17%)、理科(化学分野 49%、物理分野 37%)、英語(適語補充 49%、語順整序 19%)である。自分の弱点領域はどこであるかを確認して、今後の学習に生かしていく必要がある。

また、昨年 4 月に実施された「全国学力・学習状況調査」によれば、予習復習をしている生徒の割合が、全国平均約 42% に対し本校 25%、1 日当たりのテレビゲーム、コンピュータゲーム等の時間が 1 時間以内の生徒の割合が、全国平均約 43% に対し本校 30% である。家庭での過ごし方に気を配り、勉強時間の確保が望まれる。

なお、「学校に行くのは楽しい」、「学校の規則は守っている」、「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」に対する回答は全国平均を上回っており、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができていることがうかがえる。

これらのことをふまえて園田東中では、次のことに取り組んでいきたい。

- ・チャレンジスクール（放課後学習）の曜日を増やし、つまずきを解消する。
- ・チャレンジスクール（放課後学習）への生徒の参加を保護者にも願う。
- ・家庭学習につながる宿題を工夫する。
- ・学力調査の結果をふまえて、教科指導を工夫する。
- ・家庭においても携帯やゲーム、テレビの時間について親子で話し合ってもらえる機会をふやす。